

健康診断証明書における 異常所見記載の就職への影響

木村 奈々* 島田久美子* 田口 敬子*
佐保由美子* 辻岡三南子* 齊藤 郁夫*

当大学保健管理センター（三田分室）では卒業年度の学生に対し、定期健康診断に基づき就職用の健康診断証明書を毎年約1万枚発行している。その中で、異常を認めた学生には二次検査を施行し、その結果を健康診断証明書の備考欄に記載している。今日の厳しい就職状況の中、異常所見記載の有無が就職に影響を及ぼすのではないかと懸念される。そこで今回私達は、健康診断証明書の異常所見記載の就職への影響について検討した。

対象と方法

平成7年度定期健康診断受診者4,459名のうち、健康診断証明書の備考欄に記載のあった学生（以下有所見者）83名中調査に協力の得られた66名（回収率：79.5%）、および記載のない学生（以下無所見者）71名（無作為抽出）の計137名を対象とした。

有所見者66名の内訳は尿所見異常として、尿潜血・蛋白陽性が40人（60.6%）、尿糖陽性が9人（13.6%）、循環器が7人（10.6%）、呼吸器が4人（6.1%）、その他が6人（9.1%）である。

上記137名を対象とし、電話によるアンケート調査を行った。質問事項は①卒業後の進路、②その進路に対する満足度、③決定時期、さらに有所見者には④健康診断証明書による悪影響

の有無、⑤異常所見記載についての賛否、⑥意見などである。

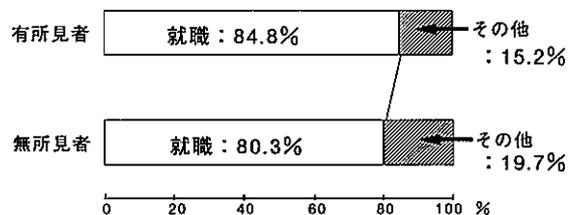
成績

1) 卒業後の進路について

卒業後の進路を図1に示した。有所見者のうち、就職したものは84.8%であった。また無所見者の就職率は、80.3%であった。よって、両者において就職率に有意差はみられなかった。

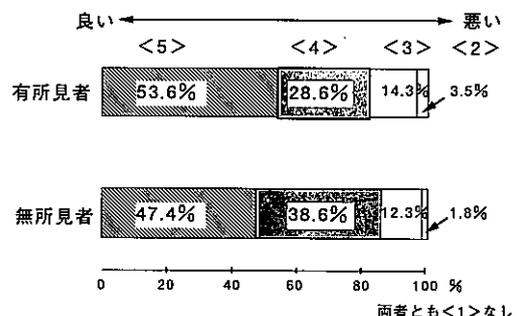
2) 進路の満足度について

満足度を5段階評価で最高を<5>、最低を<1>としたものを図2に示した。有所見者において<5>と自己評価した学生は53.6%、<4>が28.6%であった。無所見者においても



*その他には進学者、留学者が含まれる。

図1 卒業後の進路



両者とも<1>なし

図2 満足度

* 慶應義塾大学保健管理センター

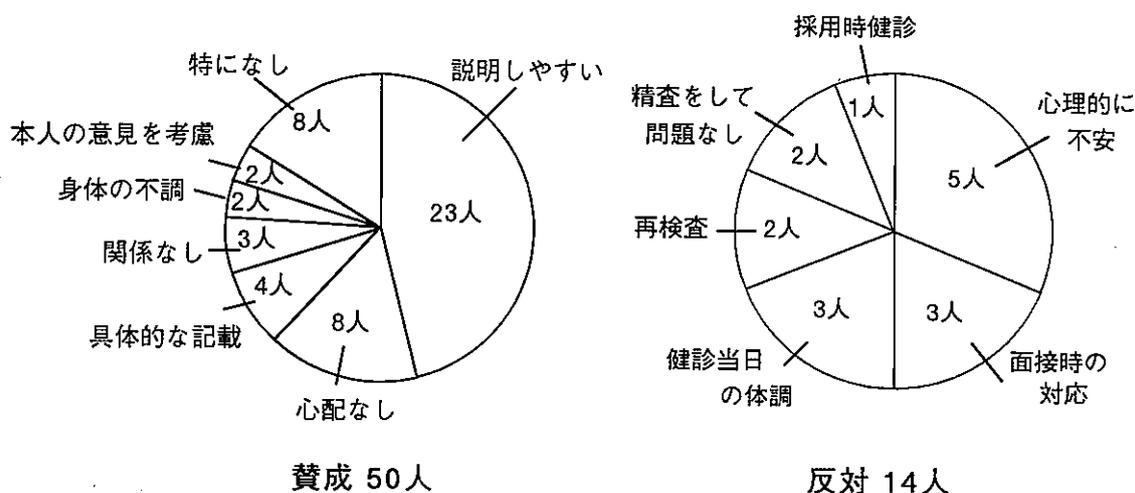


図3 異常所見記載の賛否

< 5 >が 47.4%, < 4 >が 38.6%であり, 有所見者では希望がとおらないという傾向はみられなかった。

3) 決定時期について

就職協定で内定が開始される 10 月 1 日前後で両者を比較した。10 月前に内定している学生は, 有所見者で 89.3%, 無所見者で 93.0%と両者とも大多数が早期に内定できており, 有意差はみられなかった。

4) 悪影響の有無について

有所見者において就職した者 56 名のうち 3 名 (5.4%) が何らかの悪影響をうけたとしている。内容をみると, 1 名が内定社だけ健康診断を別に受けたということ (心臓について記載), 2 名が面接時に再検査をしたかどうか聞かれたということ (尿糖について記載) であった。

5) 異常所見記載の賛否について

図 3 に賛否の内訳を示した。有所見者において, 健康診断証明書の備考欄に記載があることに賛成な者は 50 名 (75.8%), 反対な者は 14 名 (21.2%), 無回答の者は 2 名であった。反対意見をみると, 心理的に書いて欲しくないと思ったもの 5 名, 面接時など質問された時の対応が難しいと思ったもの 3 名, 学生健康診断当日の体調で記載されてしまったと答えるもの 3 名,

別に再検査等受けさせられたためと答えるもの 2 名, 精査をして問題がなければ書かないで欲しいと答えるもの 2 名, 採用時健康診断を行うのだから書かないで欲しいと答えたもの 1 名であった (複数回答を含む)。

しかしながら, 賛成意見のなかには, 結局内定後採用時の健康診断を行っても同様の結果がでるので説明しやすいと答えたもの 23 名, 記載の文末に就業に差し支えない等書かれてあるので心配ないと答えたもの 8 名, さらに具体的に記載を求めるもの 4 名, 関係がないと答えたもの 3 名, 身体の不調があって書かれるのなら良いと答えたもの 2 名, 本人の意見を聞いて異常所見記載の内容を考えるのはどうかと答えたもの 2 名, 特になしが 8 名であった。

考 察

景気の本格的な回復に遅れがみられ, 企業の経営環境が厳しいなかで, 新規学卒者の採用抑制が続けられており, 就職状況が厳しくなっていると報告がある¹⁾。このような厳しい就職状況の中, 当センターにおいても, 就職用の健康診断証明書を発行するにあたって, 異常所見記載の有無が就職に影響を及ぼすのではないか

と懸念していた。これまでも、大学保健管理施設が発行する健康診断証明書の持つ意味を考え、今後の方向性について検討されてきたが^{2,3)}、今回学生本人に意見をきくことによって、実態を知ることができた。

今回のアンケート結果から有所見者、無所見者の両者において、就職率も良く、早期に内定できており、大多数の学生が満足のいく進路へ進むことができていた。悪影響の有無においても、懸念されていたように異常所見が記載されていることによって内定が取り消されるようなことはなかった。しかし、異常所見記載に対する賛否の意見からは健康診断証明書発行時の説明の受け止め方に差があり、誤解を生じていることがわかったので、学生に対して異常所見記載に関する説明を再検討する必要があると思われた。

平成9年度からは就職協定が廃止されることになり、ますます早期に就職活動が始まることが予想される。今後も健康診断証明書の持つ意味を考え、適切な健康診断証明書の発行を心がけたい。

総 括

1. 健康診断証明書における異常所見記載の就職への影響について検討した。
2. 異常所見記載の有無は、就職率、満足度、決定時期に明らかな差はみられなかった。
3. 健康診断証明書における異常所見記載は就職に懸念されるほどの影響はなかった。
4. 異常所見記載の賛否から、異常所見記載に関する説明を検討する必要があると考えられた。

文 献

- 1) 経済企画庁編：平成8年度版 経済白書. pp. 48-50, pp. 101-102, 1996
- 2) 笠富美子：健康診断書，その内容と発行業務における問題点—アンケート調査の結果より—，第32回全国大学保健管理研究集会報告書：439-443, 1994
- 3) 山本公弘：国立大学保健管理施設における診断書作成の実態と問題点，奈良女子大学保健管理センター年報，第14：11-18, 1994